

【放射性物質循環系の解明と食料生産の認証システムに関する研究】

小山良太(代表)、石井秀樹・小松知未ら

既存の対策の総括と検証・及び体系化による合理化



農地の放射能計測
土壌診断など



放射能吸収機構
の解明



食品中放射能検査



生産者・消費者交流
風評被害調査・対策

【背景】『緊急時対応』から、『持続的対策』への転換

- ①一定の知見と成果を挙げた「基礎研究」や「地域支援」
→リスクは総体的に低下したが、少数・高リスクな事象が残る
- ② 対策コスト(費用・労力)の高さ、賠償や補助金の打ち切り
→対策の持続不可能さ、対策の後退、新たなリスクの顕在化

【方法】《画一的対応》から地域・環境の《多様な対応》の模索

- 課題1: 放射能の環境内・地域内の循環実態・機構の解明
課題2: 食料生産・検査の認証システムの構築

【課題①】放射性物質の循環系の解明

- ・試験栽培・実証栽培(伊達・南相馬・飯館・福島・葛尾)継続
- ・農地の放射能計測とマップ化の一般化
＜新規＞福島県内各地の土壌を用いたソバ・スプラウト
による農地リスク評価とその評価手法の開発

【課題②】検査体制の体系化のためのリスク管理方法の開発

- ・入口対策と出口対策の連動とその体系化
- ・風評被害の構造とその対策検討

【課題③】検査体制の費用対効果の検証と政策提言

- ・経済性と确实性を両立、対策の転換とその啓蒙

原子力被害の最前線にある福島大学ならではの研究課題の推進